

【飛島建設、オリコンサル 岐阜県中津川市内小水力発電所が運転開始  
地域と相互協力、市の支援も 経験生かしエンジ事業展開へ】

岐阜県  
中津川市内

小水力発電所が運転開始

地域と相互協力、市の支援も  
経験生かし、エンジ事業展開へ

飛島建設・オリコンサル

飛島建設とオリコンサルは、共同事業で岐阜県中津川市内に建設した「落石右小水力発電所」の運転を4月1日から開始した。同事業は企業連携・地域連携・官民連携の3つの連携を軸として、計段階から地域との相互協力と中津川市の支援をもとに、進め、パイロット事業として再生可能エネルギー事業の新たな事例と位置づけを掲げている。今後、同事業で得られた調査・計画・建設までの一連の経験・実績を生かし、小水力発電エンジニアリング事業の展開を進め、12月に現地での開所式を執り行った。

中津川市付近は、起伏一帯に目を、水路の一部の多い中川開地形のため、発電用専用水路として活め、小水力発電に適した。活用にあたっては、水量・未利用箇所が多い。一は、地域との協力を軸として、同事業では、中津川市内に経年劣化が進んだ水路の落石右地区で、大正時代にも取水設備を改修・更新代につられた歴史のある、農業用水路としての農業用水路の未利用を、利便性の向上を図った。



発電所前で執り行われたテープカット

発電所の位置は、岐阜県中津川市落石右平石13番55号(水本・木留川水系落石川本谷)。事業主体は飛島建設・オリコンサルが共同出資(負担50・50)。発電した電力は高圧取電設備を設け、全量を年々2.11MW×3.6時、既設の農業用水路を小水力発電設備の堰水路として共用することにより、建設コストを抑えるとともに、劣化した水路の入れ替えや補修によって、将来の農業用水路の維持管理費用を軽減している。

また、運営費用のうち、清掃や点検を維持する一部は地区を通じた清掃活動の取組みと地域の調査や話し、関係者の調音や許可で地元自治体の中津川市の支援を得た。

主要設備は、水車・横軸クワトロロー、定格出力130kW(テコエ製)、有効落差4.1m、最大用水量0.25立方分秒、発電機・横軸三相誘導発電機、定格出力120kW、開閉付高圧設備は、入口弁、配電盤、屋外系統連系設備、無停電電源装置、水車水位検出器、簡易型遠方監視制御装置、土木建築設備は、閉水路・既設の農業用水路(φ18)と閉路設備を改修整備、ヘッドタンク・RC造、4.5M×2.1M×3.6M、水圧管路、φ450、延長FRPM管埋設430M、送電用変圧器2台、余水路60M、取付道路2か所となっている。

開所式には、飛島建設副社長、野崎秀則オリコンサル

タツ社長、青山節見中津川市長、上マイシユ・ドウアエコ共同駐日特命全権大使らが出席し、テープカットを行った。

飛島建設副社長と述べた。書いている。野崎副社長は、「関係者の皆さんに感謝申し上げる。この事業が地域分散型エネルギーとして、今回の一網の網羅的な先駆けとなり、地域発展の一助城創生にもつながると述べた。

また、中津川市長は、「後述している。野崎副社長は、「地域の発展とエネルギー政策の両立を、積極的に推進して、地域に貢献する事業であり、地域の発展につながる」と述べた。